

飯塚市議会議員

ながすえ雄大

~まいしん~

活動報告
VOL.20

このたびの記録的な豪雨により、被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

10年後の飯塚市の財政見通し

本年2月に最新の飯塚市財政見通しが示されました。この財政見通しは平成24年、27年と示されましたが、それらに共通する内容は「様々な要因から歳出の拡大が進み、単年度収支が大きく赤字になるため、積み立てている基金を取り崩してその補填を続けなければならず、最終的に基金が枯渇してしまう」というものでした。そして今回示された財政見通しで、現在約149億円ある基金が10年後には約19億円にまで縮減してしまうという衝撃的な将来予測が示されました。

私はこれまで、その費用対効果の有効性という観点で、「新庁舎建設」、「中心市街地活性化事業」、「小中一貫校建設」などの大型公共事業に疑義を呈し、予算の使い道を見直すように求めてきました。しかし、そのような見直しはなされずに事業は完了し、結果的に今回のような危機的な財政予測が出てしまいました。

財政健全化に向けて何をすべきか

以上のように現状は大変に厳しいのですが、それを嘆いていても何の問題解決にもなりません。これから求められることは見通しのような状況に陥らせないための未来へ向けた財政健全化策です。

私はそれに関して3月の一般質問において具体的な提案を市に行いました。詳細については次のページでお示ししていますが、簡単にまとめると、「ふるさと納税の取り組みを強化することによる歳入の確保とSIB(※)を導入することによる民間活力を利用した歳出の効率化」という財政健全化策です。

課題は多いですが、うまく実現すれば単年度の赤字は大きく縮減され、結果として基金の枯渇を防ぐことができると言えています。市として独自の財政健全化策が提示されていない以上、10年後の基金枯渇による市政の大混乱を避けるためにも、私の提案する財政健全化策を実行に移すことを強く要望していきます。

※SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)…行政、事業者、民間資金提供者等が連携をして、社会的課題解決に取り組む新しい手法。社会的課題が解決されたのかを第三者が評価し、その評価に連動して支払われる成果報酬型の仕組みが大きな特徴。

飯塚市議会議員
永末雄大

平成30年3月議会での一般質問

「財政健全化について」

質問の趣旨

本年2月に示された飯塚市財政見通しにおいて、現在約149億円ある基金が10年後には約19億円にまで縮減してしまうという将来予測が示されました。そのような事態を防ぐために、今から取り組める具体的な財政健全化策を市に提案すべく一般質問を行いました。

主な質疑内容

永末>最新の財政見通しでは10年後の基金残高が19億円まで減少するという将来予測が示されているが、この現状をどのように認識しているのか？

部長>この財政見通しは通常分と特別事業分に分かれているが、全体として赤字の状況が続く見込みとなっており、当分は基金を取り崩して財政運営を行わねばならず厳しい状況にあると認識している。

永末>今まで行財政改革を行ってきたが結果として財政は厳しいままであることから、これまでの延長では財政健全化は不可能だ。私はこれから必要なことは二つあると考えているが、その一つは歳出の見直しであり、具体的には、SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）の導入を検討すべきだ。

部長>SIBとは社会的課題解決を第三者が評価し、それに連動して成果報酬が支払われる新しい手法である。成果の可視化により行政サービスの質の向上や予防的な事業への取り組みで行政コスト削減などが見込まれる。

永末>これから超高齢社会においては予防という視点が行政に強く求められるためSIBの早期の導入を要望する。もう一つは歳入の確保であり、特に自主財源の確保が必要である。その点、ふるさと納税を強化し、寄付金という形の自主財源を確保すべきだと常々要望してきた。その現状について答弁を求める。

部長>本市に対するふるさと納税による寄付額は、平成28年度が1億7600万円、平成29年度は1月末時点において4億8400万円という状況である。その経費率は51.7%となっている。

永末>寄付額は28年度から29年度にかけて約3倍になっている。29年度が最終的に5億円の寄付額になると仮定し、経費率5割で計算すると、本市には2.5億円の自主財源が残る計算になる。また、ふるさと納税制度は市場規模に対してまだ1割程度しか利用されていないとされており、まだまだ拡大する余地が残されている。他の自治体の状況を見ると、大阪府泉佐野市は人口10万人だが平成29年度の寄付額が現時点で130億円位になっていると聞いている。本市も財政健全化を目標にして爆発的な拡大を目指すべきではないか。

副市長>(ふるさと納税は)市の財源確保、地域商品の流通、雇用創出など様々な面で効果が大きいと考えるので、今後も積極的に取り組んでいく。

永末>10年後に基金が枯渇する状況を考えると選択の余地はない。ふるさと納税への取り組みを加速することで基金を取り崩すことなく行政運営が行える可能性がある。ぜひ財政健全化を見据えて取り組むことを強く要望する。

質問を終えて

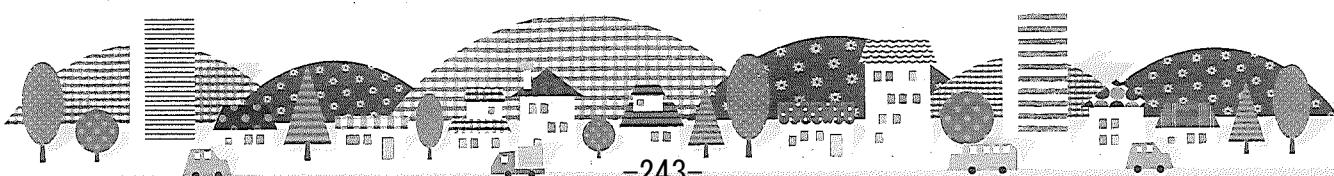
今後10年間、巨額の単年度赤字が続きそれを補填すべく約130億円分の基金の取り崩しが必要という財政見通しが示されました。市は将来的に予算が組めなくなる可能性を示すなど財政は危機的状況にあると言えます。この状況を改善すべく次のような財政健全化策を市に提案しました。

①SIBを導入し、予防的事業を徹底することで、将来的な社会保障費などの歳出の拡大ペースをできるだけ緩やかにする。

②ふるさと納税制度を強化することで、自主財源を増やして歳入増を図り、基金の取り崩しを可能な限り少なくする。

③について具体的には、平成29年度で約5億円となったふるさと納税による寄付額をさらに拡大させ、単年度で20億円規模の寄付額を集めることを目標とします。そうすれば、毎年10億円の新たな自主財源を確保することができることになり(経費率50%で計算)、その分の赤字が解消されます。それは基金の取り崩しの減少につながるため、仮に10年間継続できれば100億円の基金の取り崩しが不要となります。単年度でふるさと納税により20億円の寄付金を集めることは大変ではありますが、全国では本市と同規模もしくは小さい自治体が毎年数十億円規模の寄付金を集めている現状を考えると、決して不可能な数字ではないと考えます。

私は今までふるさと納税以外にも様々な財源確保策を提案してきましたが、急を要している現状を鑑みると、早急に対応できる財源確保策としてふるさと納税制度の活用が最も可能性が高いと考えます。また、今回の質問では、「企業版ふるさと納税制度」にも触れ、その取り組みも並行して行うべきだと提言いたしました。



平成30年度一般会計予算特別委員会

VOL.20

3月13日から15日の3日間の日程で、平成30年度飯塚市一般会計予算特別委員会が開催され、
以下のような事項について質疑を行いました

質疑事項（予算額）	予算及び事業概要	意見及び要望
公衆無線LAN 整備委託料 2,686万円	<ul style="list-style-type: none"> ◎公衆無線LANを12地区交流センター及び中央公民館に整備する。 ◎各施設のホール及び会議室での使用を想定している。 ◎情報発信力の強化、地域コミュニティの活性化、災害時の情報共有手段の確保が整備の目的。 	<p>以前一般質問において、地区交流センターが災害時の避難所になった際に、情報収集体制の強化が必要であることから、公衆無線LAN整備を要望していた。今後は、実際の運用状況に注意するとともに、交流センターに人を集めれる拠点整備の仕掛けの一つという認識をもって取り組むように要望した。</p>
サン・アビリティーズ いいづか 施設管理運営事業費 3,451万円	<ul style="list-style-type: none"> ◎サン・アビリティーズいいづかは、昭和58年に開設されており、老朽化が進んでいる。障がい者・障がい児の福祉の向上、社会参画促進の活動拠点として、施設改修を行う。 ◎予算内容は外壁の改修工事とプール屋根の防水工事に係る設計業務委託や、体育館の排煙装置改修工事などである。 	<p>以前一般質問において、この施設の整備要望を行っていた。この施設については、公共施設再編の流れの中で移転の方針が示されており反対していた。今回の予算は、施設長寿命化のための設計や改修予算であり、これは新飯塚駅そばの利便性がよい現在地で今後も施設を維持していくという行政の意志の表れであることから、重要な予算措置であったと考えている。</p>
児童クラブ 運営等委託料 2億6,452万円	<ul style="list-style-type: none"> ◎委託先はNPO法人飯塚市青少年健全育成連絡協議会であり、合併後から随意契約で委託している。 ◎29年度より学校教育課に所管が変わったため、学校との連携を深めて子どもの安全確保に努めていく。 ◎支援員の人員確保については課題として認識しており、退職教職員に対する呼びかけ等の取組みを進めていく。 	<p>以前児童クラブの施設改善を要望する中で、現場から支援員が足りないという声を聞いていたこともあり、今回、質問を行った。行政としても支援員の確保は大きな課題だととらえており、学校と連携してこの問題に対処していくという回答を得た。随意契約では相手に緩みが生じる恐れもあるため、その点も含めて委託先と緊張関係を保つように要望を行った。</p>
農業振興地域 整備計画策定 支援委託料 468万円	<ul style="list-style-type: none"> ◎整備計画策定の発注先はコンサルティング会社などを予定している。 ◎合併後においても1市4町単位で別々だった農振地域の基準について整理するための予算措置である。 ◎この計画については農振協議会においても審議していく。 	<p>農業振興地域制度とは、農振法に基づき、農業振興や農地確保などを図るために基本となる制度である。この計画は農業者に大きな影響を及ぼすと考えるため、その発注先は地域農業への知見を有する事業者であることを求めるとともに、生産組合や農振協議会などの農業関係者への事前の説明をしっかりと行うことを要望した。</p>
浸水想定 ハザードマップ 作成業務委託料 706万円	<ul style="list-style-type: none"> ◎国と県のデータに基づいた本市の新たな浸水想定ハザードマップを作成するための予算である。 ◎ハザードマップについては事前の周知が重要であるため、全戸配布、ホームページでの公表、自治会などの防災研修での活用などの方法で周知活動を行っていく。 	<p>昨今多発している浸水被害への対応を図るために予算措置であり、市民の安全確保のための重要なものであると考える。新しいハザードマップが市民に広く浸透しなければ作成した意味がないため、今までの周知活動を継続するとともに、自治会単位での危険個所の情報共有なども行っていた様子を要望した。</p>

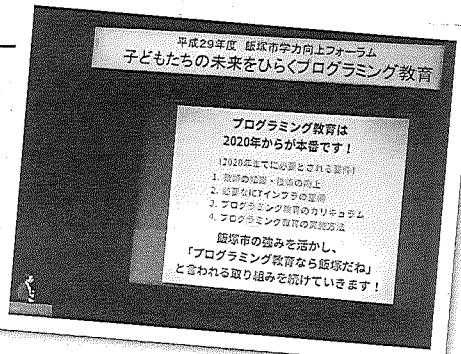
平成30年1月～3月 主な活動報告

1月21日

飯塚市学力向上フォーラム

この日はコスモスコモンで行われた飯塚市教育委員会主催の学力向上フォーラムに参加しました。時間の都合で前半の部のみの参加になりましたが、現在飯塚市で行われている産学連携によるプログラミング教育の取組みについての講演を聞き、市内の小中学生がプログラミングしたロボットを使っての実践発表を見せていただきました。

プログラミングとは、「人間の意図した処理を行うようにコンピューターに指示を与える行為」などと定義されますが、2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されるなど、これからIoT時代を生き抜く上で重要な知識・技術だと考えています。このような小中学校での取り組みが地元の高校、大学、企業と連携できるかがこれからの課題だと考えますので、産学連携事業などを通じて早急な仕組みの構築を提言していきます。



2月8日

3月12日

経済・体育施設に関する調査特別委員会

「新体育館」については、建設基本計画案に対する市民意見募集の結果が報告されました。募集期間は1か月でしたが、158件の市民意見が寄せられたとのことで関心の高さを感じました。また、新体育館等の設計者を選ぶ選定委員会を設置するための議案が可決されたため、本年8月上旬までに設計者が選定されることになりました。

「筑豊ハイツ」については、エントランス駐車場を事業予定地とし、公募・選定期間を3月下旬とする再整備事業計画が示されました。これは民間主導で整備事業を行っていただける事業者を募集するものでしたが結果として応募はありませんでした。この結果を受け、市は再度募集条件を見直し、公設民営という形での再提案を行うことになりました。

「地方卸売市場」については、魚市場を除いた青果及び花市場の2市場になった場合においても庄内工業団地グラウンドに移転する考えが示されました。また、体育館と同様に新地方卸売市場の設計者を選ぶ選定委員会を設置するための議案が可決されたため、本年8月上旬までに設計者が選定されることになりました。

3月6日

都市計画審議会

この日の都市計画審議会では「飯塚市都市公園等ストック再編計画」の進捗状況について報告がありました。この計画については邁進19号でもお伝えしていましたが、市内各所の公園をその周辺環境の変化に合わせて整理統合するというものです。今回は特に都市公園の状況について、地域単位の設定やその地域内の都市公園の分布状況、分析評価の基準など、都市公園の再編・再整備に向けた基本的な考え方が示されました。

改善されました!

邁進18号で建花寺地区にコミュニティバスのバス停設置を要望している旨をお伝えしていましたが、本年4月よりバス停が新設され建花寺地区にもコミュニティバスが通るようになりました。この他にも市民の方から多くご要望をいただいております。少しでも市政が改善されるように鋭意努力して参ります。



< 飯塚市政に対するご意見・ご要望を承ります。以下の方法でご連絡下さい。 >

ながすえ雄大 連絡先 (行政書士ながすえ行政法務事務所内) ☎820-0116 飯塚市多田180番地1

▼出張相談も行っております。日時と場所を調整してご訪問いたしますのでお気軽にご連絡下さい。

0948-82-0012

0948-82-0013

y.nagasue@gmail.com



日々の活動を **facebook** で紹介しています。
ぜひアクセスしてください。
<https://www.facebook.com/NagasueYudai>



245



ブログで情報発信中!
『nagasueblog.com』で
検索して下さい。



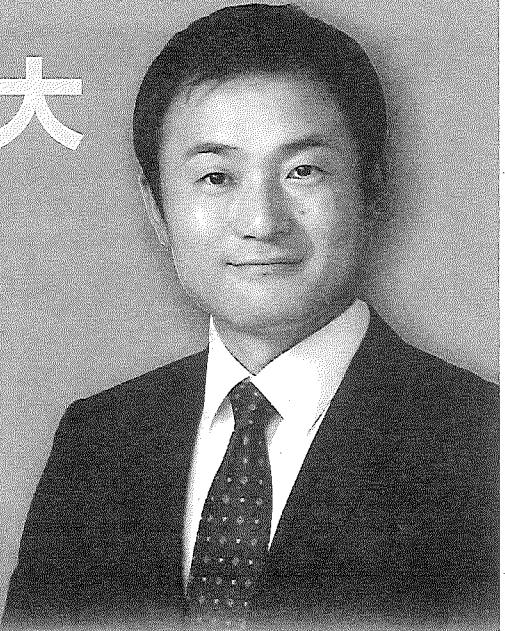
飯塚市議会議員

ながすえ雄大

~まいしん~

活動報告

VOL.21



子育て支援について

昨年より所属している福祉文教委員会において、子育て支援について集中的に審議を行ってきました。保育行政について飯塚市から提案される議案や報告事項についてチェックするとともに、委員会としても自発的に大学、NPO法人、私立保育園・幼稚園などの保育に関わられている方々をお招きし、意見交換をさせていただきました。

直接意見交換をすることで様々な気づきがありました。例えば、近畿大学九州短期大学保育科の三

木一司教授からは、保育科の学生の現状などについて、NPO法人子どもと保育研究所ぶろほの山田眞理子所長からは、現役の保育士が研修を受講し、技術や知識を習得することの重要性についてお話を聞きしました。また、飯塚市私立保育協会の森山紹人会長からは、私立保育園それぞれの園の現状、人材確保の難しさ、保育の質という視点についてなど意見交換をさせていただきました。

待機児童の現状とその解決策

福祉文教委員会に提出された最新の資料によると、飯塚市における待機児童数は49人となっています。市はこの現状に対して、新たに100名定員の保育園を設けることで対応するという考えを示していますが、私は以下のような理由から慎重に判断すべきではないかと考えています。

- 現在ある保育園の全てが定員に達しているわけではない。
- 待機児童が生じている原因は「保育士不足」であり、施設の新設では解決できない。
- 人口減少社会においては大規模園の新設ではなく、小規模施設の設置等でも対応可能。
- 現状の待機児童はほぼ2歳児以下であり、3歳児以上の入所率は95%以上である。

●来年予定されている保育無償化により利用者が増える見込みが新設の大きな理由であるが、幼稚園の認定子ども園化などの具体的な解決案が示されている。

以上のような理由から保育園の新設という視点だけではなく、「保育士の待遇改善」、「保育士人材バンク制度の創設」、「男女共生の視点で市内事業所に子育てへの理解促進」などを行うことで保育現場の負担軽減を図り、より多くの保育士が働きやすい職場環境の整備を行うことについても検討すべきだと考えます。

飯塚市議会議員

永末 雄大

平成30年6月議会での一般質問

1.「市民協働のまちづくりについて」

質問の趣旨

少子高齢化、核家族化、地域の結びつきの希薄化、住民ニーズの多様化などの理由から、市民協働のまちづくりが必要とされています。行政は各地域のまちづくり協議会をその活動のパートナーとしており、今後ますますその役割が重要なものとなっていきます。まちづくり協議会の現状を確認し、その活動の充実を求めるべく質問をしました。

主な質疑内容

永末>現状としてまちづくり協議会が抱えている課題は何か?

部長>現在は活動中期となり活動は盛んだが、協議会組織や活動内容等の周知及び人材確保が課題である。

永末>周知不足は以前にも指摘したが状況は変わっていない。地域協働のまちづくりを進める上で協議会の位置づけの明確化と組織強化が必要ではないか?

部長>法人化に向けた取組みを支援していかたいと考えるが、その前に協議会の位置づけを明確化する条例等の整備が急務である。

永末>組織強化には市の支援が必要と考えるが、どう考えるか?

市長>自治会と協議会それぞれの役割を整理し、また、31年度までに条例等で協議会の位置づけを明確にする。

2.「健幸都市への取組みについて」

質問の趣旨

政府は2018年度に120兆円ある社会保障給付費が2040年度には190兆円に達するという推計を公表しました。国、地方ともにこの社会保障給付費の拡大にどう対応していくかが今後の行政運営の最大のポイントになります。私はこの点について従前より「予防事業の徹底」が必要だと主張しており、飯塚市の今後の対応を確認すべく質問しました。

主な質疑内容

永末>健康への関心を高めていく仕掛けとして、新潟県見附市のように健幸ポイントを地域商品券と交換できるようにすべきだ。その際のシステム構築に、本市でのアプリコンテストを利用するなどすれば、導入費用面の課題も解決される。

部長>事業へのICT活用やアプリコンテストのテーマとして提示するなど検討していく。

永末>以前も同様の提案を行ったが、健康への意識改革の取り組み

結果が出ていない現状を変えるため、事業のICT化に取り組むべきと考えるがどうか?

市長>運動だけでなく生活習慣や食生活の改善など総合的に整理する必要がある。ICTの活用については今年度中に方向性を示したい。

永末>職員の心身向上のため、健康管理を経営的視点から捉え戦略的に実践する健康経営を本市がまず導入し実践すべきと考えるのでしっかりと検討することを要望する。

平成30年9月議会での一般質問

1.「平成30年7月豪雨への対応について」

質問の趣旨

平成30年7月豪雨により本市は大変に大きな被害を受けました。災害時において情報共有が非常に重要な考えのもと、防災行政無線の改善とともに、テレビやLINEを活用するなどの新しい情報共有手段の構築を求めるため、また、自主的な避難が難しい「避難行動要支援者」への対応状況を確認し、改善を求めるために質問しました。

主な質疑内容

永末>過去に何度も指摘したが聞こえにくい防災行政無線への対応はどうなっているか?

部長>放送文の簡潔化、スピーカーの向きや音量調整などを行ってきた。また、HPへの掲載、SNSでの発信なども行っている。

永末>フェイスブックでの情報発信は今回多くの方が参考にされており改善点だ。福岡市のようにLINEの活用についても検討を要望する。また、テレビでの情報発信の検討状況はどうか?

部長>導入自治体へ聞き取り調査などを継続して行っていく。

永末>避難行動要支援者への対応について。

部長>台帳登載者全員への連絡にかなりの時間を要した。今後はその効率化のためにGISシステムの導入を検討していく。

永末>早期に地区ごとの防災体制を構築することを要望する。

2.「国際化への取組みについて」

質問の趣旨

少子高齢化、人口減少、労働力不足などの課題を抱えるわが国にとって、平均年齢が若く、成長を続けるアジア諸国との交流は今後ますます重要になります。この国際化については、地域活性化を考える際にも重要な視点になると考えるため、本市の大きな方向性と今後の具体的な取り組みを確認すべく質問しました。

主な質疑内容

永末>新たに国際交流推進室を設置した目的及び意図は何か?

市長>市内留学生の状況把握、労働力不足問題への対応、海外進出支援などを行い、本市独自の国際化への環境整備を行うために設置した。

永末>策定中の国際化基本計画の国際・経済交流と多文化共生について説明を求める。

部長>姉妹都市との経済交流、インバウンド事業、多言語での情報発信、外国人の生活支援、国際理解の推進などを考えている。

永末>現在でも市内留学生による各国の料理提供イベントが行われているが、そこへの支援と情報発信を強化するなどして、本市の国際化へのイメージ戦略も今後しっかりと行っていくべきだ。

REPORT

経済・体育施設に関する調査特別委員会

以下は前号の報告以降の特別委員会で審議された内容のまとめです。本年度の開催日は、4月12日、6月12日、6月27日、8月9日、8月31日、11月6日。委員会は現在も継続審議中。

01

新体育館

(以下8月9日の委員会に提出された資料より)

- 新体育館建設のための設計者を選ぶために選定委員会が開催された。
- 選定委員会で5つの項目を課題として設定し、それらを満たした提案書が4事業者から提出された。
- 審議の結果、最優秀提案者として(株)梓設計九州支社が選ばれた。

選定委員会からの(株)梓設計九州支社への個別講評

敷地全体にアリーナ、サブアリーナ及び駐車場を分散配置した計画案です。大庇を建物前面に広くとることでアプローチに対してシンボリックな景観を創り出すとともに、大庇下の3つの広場をうまく活用することで、公園全体の賑わいを創出する提案でした。これらの広場が体育館本体と駐車場などの周辺施設をうまく繋いでおり、公園全体を有機的にデザインしています。あわせて体育館本体について、メインアリーナ、サブアリーナ、多



※委員会提出資料「技術提案書」より

目的ルーム等をコアとしてのサービスエリアの周りに配置することによってセキュリティラインがフレキシブルに設定できるようになり、スポーツに限らない様々なイベントにも幅広く対応できるゾーニングとなっています。本提案は魅力的な空間を多く含み提案者の構想力の高さが十分にうかがえます。大庇については建設費用の面において不安が残るため、今後に慎重な検討を要するものの、4者の中で最も高い評価を得ました。

02

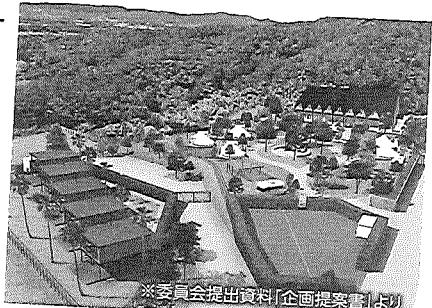
筑豊ハイツ

(以下8月31日の委員会に提出された資料より)

- 飯塚市庄内温泉筑豊ハイツ再整備事業者選定については、幅広い知識と実績を有する民間事業者から提案を受け、DBO (Design:設計、Build:建設、Operation:運営) 方式により実施する市の方針のもと、事業者の選定を行うこととした。
- 参加表明が1事業者よりなされ、選定委員会において(株)ソニックスポーツを代表事業者とするグループが最優秀者として選ばれた。

選定委員会による審査講評

提出された参加資格審査書類を審査した結果、グループを構成する各事業者ともに参加資格要件を満たし、それぞれの業務において十分な実績と実力、安定した経営基盤を有する事業者がありました。企画提案については、テニスを基本としたスポーツホテルとグランピングを組み合わせた希少な提案となっており、地域の資源を活かし、市が推進する「嘉飯桂園域テニスのまちづくり計画」に資する内容となっていました。また、代表事業



※委員会提出資料「企画提案書」より

者が、ホテルとテニススクールを運営している事業者であることから、テニス事業による収益確保についても期待が持てる内容であり、厳正、公平かつ慎重に審査した結果、全委員了承のもと最優秀者として特定しました。ただし、ユニバーサルデザインへの配慮において具体性に欠けていたことや、施設全体の配置計画については検討を要する内容でした。

03

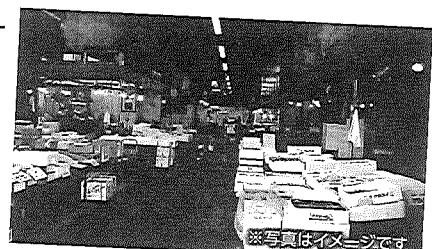
地方卸売市場

(以下8月9日の委員会に提出された資料より)

- 新しい地方卸売市場建設のための設計者を選ぶために選定委員会が開催された。
- 選定委員会で5つの項目を課題として設定し、それらを満たした提案書が3事業者から提出された。
- 審議の結果、最優秀提案者として(株)東畠建築事務所九州事務所が選ばれた。

選定委員会からの(株)東畠建築事務所九州事務所への個別講評

卸売市場の実情や特性をよく把握し、十分に様々な検討がされた提案で、施設の細部を熟知していて、明確な物流の動きや施設利用への配慮が大きいに感じられました。具体的には、大スパンのトラス構造を採用することによって空間を確保する構造や、利用形態から青果物・花き部・管理棟及び関連店舗を別棟とする構成が提案されました。また、3次元の解析を行い、設計から



※写真はイメージです

施工、維持管理に至るまで段階的に検証をしていく提案もあり、全体的に大変優れた説得力のある提案でした。今後、飯塚市や卸売市場関係者と協議を重ね、駐車場や動線を考慮したゾーニング等の整備内容と整備費、利便性とのバランスを考慮した上で、より優れた設計がされることを期待します。

4/21 いいづか男女共同参画推進ネットワーク総会

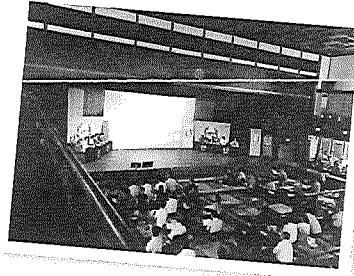
この日はいいづか男女共同参画推進ネットワークの総会に参加しました。この組織は、イイヅカコミュニティセンターを活動拠点とし、男女が性別に関わりなく個人として尊重され、それぞれの個性と能力が発揮できる男女共同参画社会の実現を目指して活動されている団体です。委員の方が行政の様々な審議会などに出席され、策定中の計画書などに女性の視点による提言を行う等の幅広い活動をされています。

大規模災害時の避難所運営に女性の視点を取り入れるというような、多角的な視点から行政をチェックして幅広く住民満足度を高めていくことはこれからの時代にますます求められます。男性、女性、学生、高齢の方、障がいを持たれている方など様々な方が、積極的にまちづくりに参加したくなるような場を作りたいと考えています。

9/9 スタートアップワールドカップ2019日本予選 九州大会

会場となったのは飯塚市の嘉穂劇場でした。スタートアップとは、「大きな成長を持続させていける会社」というような意味で、この大会は世界中のそのような会社をサッカーのワールドカップのように競わせて世界一を決定しようというものです。この日はその日本予選の九州大会が開催され、飯塚市の企業も含めた10社によるプレゼンテーションが行われました。前半の3分で自己紹介や事業アピールを行い、後半の3分で質疑応答するという非常にテンポよくリズミカルに進行していく大会でした。

世界一に選ばれた会社には1億円という大きな金額の賞金が与えられますが、それ以上に世界中の投資家から注目され、世界規模で事業展開していく道が開けるため多くの起業家が競って参加しているとのことでした。スタートアップというイメージが強いのですが、名譽ある九州大会会場として飯塚市が選ばれたのは、本市がサニーベル市と友好都市関係にあるということが大きな理由としてあげられていました。このようにまだまだ本市には発展していく可能性が残されているので、そのような部分をしっかりと育てていけるように行政に提言していきます。



10/5 都市計画審議会

この日の都市計画審議会では「新体育館建設に伴う特別用途地区の変更について」などの報告がありました。新体育館の建設予定地には運動施設、観覧場の建築用途が規制対象となっていることから、市民公園の公園区域に特別用途地区を指定し、限定的な規制緩和を図るという内容でした。市から上位計画との整合性の説明を受ける中で、少し不明確だと感じる点があったため、質疑を行うとともに、再度わかりやすい説明を行うように指摘しました。

請願を提出しました!

6月議会に「飯塚市弓道場に関する請願」を5名の同僚議員とともに紹介議員として提出しました。請願者は飯塚市弓道連盟であり、請願の要旨は以下のよう�습니다。

- ①弓道場の建替えにあたり、既存の規模より縮減することなく、現弓道場と同等若しくはそれ以上の拡充を図っていただきたい。
- ②日本の伝統的武道としての弓道文化を尊重し、静謐・清澄な雰囲気の中でこれを行うにふさわしい佇まいをもつ道場を設置されたい。

弓道場の建替えに関しては現在特別委員会にて審議中の新体育館建設とも関係していますし、財源の問題、関係者間の調整など、数々の課題がありますが、可能な限り請願者の要望に沿ったものを実現できるよう努力して参ります。

飯塚市政に対するご意見・ご要望を受けたまわります。以下の方法でご連絡下さい。

ながすえ雄大 連絡先 (行政書士ながすえ行政法務事務所内) ☎820-0116 飯塚市多田180番地1

▼出張相談も行っております。日時と場所を調整してご訪問いたしますのでお気軽にご連絡下さい。

0948-82-0012 ☎0948-82-0013 ✉y.nagasue@gmail.com

出張相談も
行っております
日時と場所を調整して
ご訪問いたしますので
お気軽にご連絡
下さい。



日々の活動をfacebookで紹介して
おります。ぜひアクセスしてください。
<https://www.facebook.com/NagaseYudai>



ブログで情報発信中!
『nagasueblog.com』で
検索して下さい。



